

～ いざカンボジア王国へ！ 2020年8月～

JICA 専門家 小松海里

猛暑、豪雨災害に加え、新型コロナウイルスに対処しなければいけない大変な夏となっています。皆様はお変わりありませんでしょうか。日本の豪雨災害などはカンボジアでも報道されており、カウンターパートから心配のご連絡をいただくこともあります。

ビジネス渡航再開や外務大臣のカンボジア含めた ASEAN 歴訪が報道されていますが、私たち JICA 専門家もカンボジアへの8、9月中再渡航の調整中です。

4月に避難一時帰国してからは遠隔で専門家の仕事を行っています。カウンターパートとは WEB 会議やカンボジアでメジャーな SNS の Telegram を用いて連絡を取り合い、プロジェクトを進めていこうとしています。



公共事業・運輸省下水道総局フィバル副総局長との打ち合わせの様子

さて、皆様はウェビナーというものをご存知でしょうか。ウェブ(Web)とセミナー(Seminar)が組み合わさってウェビナー(Webinar)というそうです。私は存じませんでした。この在宅勤務中に、国交省の紹介でユネスコ開催のウェビナー「大都市における水の運用管理へのコロナの影響」を視聴してみました。パネリストは北京、広州、ジャカルタ、カラチ、ラゴス、ムンバイ、上海、深圳、テヘラン、武漢の政策立案者もしくは水の専門家で、COVID-19 パンデミックやその他災害等に対する水関連の対応について議論するというものでした。パネリストが画面上にまさしくパネル表示され、視聴者は時々出されるアンケートに答えたり、テキストでの質問ができたりします。

このようなウェビナーは探してみるといろいろとあるようです。一方的に見ているだけですし、英語も多種多様なのでかなりの集中力をもとめられましたが、自宅にいながら知見を得るのはもちろん、国際会議の雰囲気を感じることができるので、興味がある方は参加されてみてはいかがでしょうか。

20年前ではこうはいかなかったと思いますが、国際協力に使うツールの選択肢ややり方も増えていくのかもしれませんが、とはいえ、JICA 専門家は現地での活動が重要ですので、早いところの再赴任を目指しております。

私は東南アジアへの渡航も外国での生活も初めてですので、なかなか面白い毎日を過ごさせていただいております。約1年カンボジアで過ごして思ったこと、日本へ久しぶりに戻って感じた生活面のことを少し書いてみたいと思います。

○治安

カンボジアでは凶悪犯罪は多くないのですが、ひったくりは多発しています。人目につくところで財布を出したり道端でスマートフォンを操作したりするなど言われます。私もスマホを狙われましたし、身近な人がひったくりや泥棒被害にあった話も時々耳にします。日本生活で完全に危機意識がなくなったので、再渡航したら気を付けなければいけません。

○交通 トゥクトゥク、バイク

東南アジアおなじみの3輪タクシー。以前はよくぼったくられた、わざと遠回りされたなど耳にしますが、いまはいくつかのスマホアプリがありとても便利です。出発地、目的地を設定すると金額が確定し、近くのトゥクトゥクが迎えに来てくれます。職場の公共事業・運輸省は自宅から約3km、トゥクトゥクで10分1米ドルちょっとです。日本でもタクシーアプリや既存のタクシー以外の選択肢も出てきていますが、これがあればどんなに便利かと時々思います。とはいえ、なかなか楽しいアクシデントにもよく出くわします。

- ・カンボジア入国数日の私でもわかるレベルの道間違い多発
- ・なぜか王宮の門に入っていこうとして警備員に慌てて止められる
- ・ぐるっと数区画を大回りして出発地点に戻る

アプリとナビが連動していますが、途上国では地図を読むのが苦手な人が多いと言います。運転手が困っていたら、スダム（右）、チュヴェン（左）と誘導してあげてください。

なお、並走したバイクからのひったくりなどには十分に注意が必要ですし、空港への往復には使ってはいけないとJICAから指導されております。

同じく東南アジアの足、バイク、スクーターは一人乗りしているのが贅沢なような気がするくらい、二人以上で乗ってるのが基本です。時には車のフロントウィンドウや何かわからない巨大なものを運んでいるのを見かけ、バイクの可能性の大きさに驚くとともに自分がいかに日本の固定観念にとらわれているかを感じさせられます。なお、JICA 専門家は運転もバイクタクシーを利用（二人乗り）することも禁じられています。

○Wi-Fi

都市のたいていのレストランやカフェではWi-Fiがフリーかパスワードを教えてください。セキュリティがどうかわかりませんが、大変便利です。SIMのTop upを忘れても気づかずに生活している時があります。Wi-Fi密度(?)は日本より高いような気がします。

海外経験が豊富な方達からは、初めての赴任が都会で良かったね、とよく言われます。JSに就職してから東京、神戸、福井、仙台、プノンペンと過ごしておりますが、どこでも思うのは“住めば都”です。

状況の早い回復と、皆様がカンボジアへ来られるようになることを祈念しております。